



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

Winter

平成21年

2009年 1月

会報 第45号



研修会の一コマ

## 目次

- 巻頭 覚悟
- 研修会報告
- 春夏秋冬「星の家」 NO.10
- 事務局報告
- 星の家まつり報告
- 臨時総会開催報告ほか



新年明けましておめでとうございます。巻頭には、本会理事で文星芸術大学教授の林さんに寄稿していただきました。また、12月に開催した研修会を報告しますのでご覧ください。

## 覚悟

理事 林 香君

活のための新たなホームを確保する段階にさしかかった。「星の家」のホーム長星俊彦さんは高校の同期生。卒業後初めて出会ったのが数年前である。まぶしい太陽を斜めに見上げたような表情は今も変わらない。そんなご縁で覚悟する前に理事に就任。

どんなささいなことも自分に「覚悟はできたか」と問いかける。文字通り「目覚め悟る」ということであろう。『わかる、分かる、解る、判る、腑に落ちる、悟る』と段階はいくつもあるが、覚悟は行動力に裏付けされていると私は考える。困難を乗り越える力が体の芯に湧き、確固とした揺ぎ無い心棒になり、行動を起こすための原動力を創り出すのが覚悟である。

「覚悟」と対峙するときアマゾネスが私の脳裏をかすめる。伝説の母系狩猟騎馬部族アマゾンは、弓を引くために右の乳房を切り取ったという。

初めてアマゾン（アマゾネス）の石膏像に出会ったのは18才のころ、何とも複雑なその表情を読みとれず、デッサンがうまく描けなかったことを記憶している。アマゾンの表情は遠くを見据えているようで、喜び笑うのでもなく、意気揚々でも、憤怒の形相でもない。若い頃にはその彫像に秘められている表情が、ただ不思議で難しいとしか思えず、しかもアマゾンの像には美しい乳房があり、切り取られたようすがない。伝説と違うことが腑に落ちなかった。

アマゾン部族の全員が右乳房を切り取ったわけではないだろうが、弓を極めようとした「たった一人」の存在かあるいは一握りの勇気から伝説は生まれるものである。なにごとにも決断するには相当の覚悟がいる。あの表情も「並ならぬ覚悟」と結びつけて考えると妙に納得する。アマゾン像はいろいろあるが、苦悩と決断そして、強い意志を持ち、うつむいた頭を持ち上げようとした瞬間のこのころのひだを見事に表現したものに違いないと想像する。その覚悟の瞬間の作品であるとしたら、あの複雑な表情はさらに美しく感じられ、伝説から覚悟を表現したのかと感動する。

世界中を釘付けにしたオバマ米大統領就任演説で、その表情の厳肅さに、アマゾネスを思い浮かべた。危機を共有し、世界中が腹を括らなければならない、人種、宗教を乗り越え平和決意、責任を果たさなければならないという覚悟の種を蒔く重要な瞬間であったことを私は深く受け止めた。負を正に変える原動力は一人一人の中にあるということを理解させる演説であり、危機感の共有を先ずして、そこから具体的かつ迅速にスタートを切る「覚悟の瞬間」を世界に発信したのである。

人間は常にこのころの中で葛藤する。歩く方向も、歩き方も、歩く速度もそれぞれに違う。「自分の覚悟」、「相手のための覚悟」と「世界のための覚悟」、「未来のための覚悟」、さまざまな覚悟を決める瞬間を逃

してはならない。共に美しく賢く生きる知恵を持ち、  
的確な判断をし、未来への選択のために・・・。  
次の世代のために新たな伝説の誕生を創ろう

と・・・私も覚悟を決めている。

(紀元前4世紀、ギリシャのポリュクレイトスのアマゾン像は彼の  
作品の中でも最も優れているとされている。)

## 研修会報告 ウイメンズハウスとちぎ共催セミナー 「暴力の中を生きのびる女性と子ども」 ～子どもの虐待、DVの連鎖を断ち切るために～

先の12月7日日曜日午後、パルティの会議室において、今年2回目の研修会をウイメンズハウスとちぎと共同で開催しました。

参加者は73名と予想を越え会場が満員状態に、講義が始まると皆さん真剣に聞き入っていました。



真剣に聞き入る参加者

### 【第一部】基調講演

テーマ「暴力の中を生きのびる女性と子ども」

講師：辻恵介氏（武蔵野大学人間関係学部人間関係  
学科准教授）

講演に先立ち、DVのビデオ「家族の断片」(制作ウイメンズハウスとちぎ)を放映、このビデオを例に辻講師が講演されました。

\*DVとは、女性が夫や恋人などの身近な立場の男性から受ける様々な暴力行為。

ビデオは三話で構成され、

第一話は、子どものときに性的虐待を受け八チャメチャな生活を送る30歳の女性。

自我感情の低下、汚れた人間、三点セットの自虐行為・覚せい剤・浮気、夫の酒と薬と暴力で脱出、そして援助者への疎外感・・・暴力にさらされ、暴力への親和間が高くなり、暴力的な男性に引き寄せ

られ、そして子どもにも虐待(連鎖)。

加害者になる親に多い診断は、うつ病、高機能広汎性発達障害、PTSD、境界性人格障害、解離性障害・・・メモを取る者には難しくて???

第二話は、父親から暴力虐待を受け児童養護施設で育った感情のコントロールが出来ない19歳の男性。

不適応と非行、そして交際相手への暴力。暴力を振るっても居てくれる人を好きになり、安心する人格障害に近い。加害者への同一化(同じ人を選ぶ)として、加虐による被害体験の克服(被虐、加虐の連鎖)児童養護施設での被害等々を言われた。

第三話は、夫が暴力を振るう典型的なDVで夫から逃れられない50歳の女性。

周囲(両親など)の無理解と生活基盤の欠如(一人では生活できない)・・・

以上のように事例を分析して話された。



辻恵介講師

次に、トラウマからの回復として三点、

・アウシュビッツからの生還者は、幸せな生活が送れなかったという。長期間の恐怖のトラウマは、重症となるからだ。

・一方、戦後の焼け野原からの復興、東京大空襲の被害者はトラウマの恐怖から早く立ち直れた。これは隣人達も一緒という一人だけではなく、しかも短期的だったからトラウマが軽かったという。

・ダメージを受けて戦地からの帰還は、そのときの対応よりその後の対応が大切で、よく頑張ったと称えることにより症状を軽減させることが出来ると話された。

そして、ビデオの三事例から浮上するキーワードは貧困にあるという。非行少年の犯罪が最も少ない年代は、大学の新生で、家庭の生活レベルが犯罪と比例していると。

最後に、両団体の活動の問題意識はどの程度重なっているのか？この運動は市民を巻き込むことができるのか？

答えはシンポジウムでと締めくくられた。

## 【第二部】シンポジウム

テーマ「虐待、DVの連鎖を断ち切るために」

コーディネーター：福田雅章氏（本会理事長）

シンポジスト：

中村明美氏（ウイメンズハウスとちぎ代表）

桐淵ゆか氏（県中央児童相談所相談調査課児童虐待対応チーム係長）

星俊彦氏（自立援助ホーム「星の家」ホーム長）

助言者：辻恵介氏



シンポジウム 左端から福田氏、中村氏、桐淵氏、星氏、辻氏

（コーディネーターの福田雅章氏の挨拶）

今日の虐待の増加、この子どもたちをどのようにしたら良いのか悩む。職場からの虐待相談は4万件を超えたという。都の調査では一週間で99件の児童間暴力の相談があった。職員による児童への暴力は問題だが、児童の職員への暴力もあるし、無いと

言っていた児童間の暴力も判った。このような状況で、暴力の連鎖を断ち切るにはどうしたらよいか。議論していただきたい。

（中村明美氏）

今、DV被害者への支援者が疲弊している。相談を始めてから14年が経過、単純なDV被害者対策は確立されつつある。しかし、第一話の様な支援困難な事例が増えてきている。この第一話のような被害者は、3日に一人は殺されており、20人に一人は死の恐怖を味わう暴力を受けていると言われている。そして、このDV被害者の子どもたちが負の連鎖を持つ。

この心身が不安定な女性を引き受ける男性は、DV加害者となり、安心して生活できる場がない。このような被害者を長く係わっていく対応ができないまま、現状の対応に追われている状況にある。

（桐淵ゆか氏）

虐待の連鎖として、加害者の同一化（同じような人を選ぶ）があげられる。連鎖を断ち切るには被害者の力だけでは解決できない。10年前に係わった当事子どもだった男性に偶然会った。職を持たずに昔の仲間たちと助け合って不安定な生活している状況にあるようだった。しかしこの子どもたちを今いる世界から引き上げる力がないのが児童相談所の現状である。

虐待は、早期発見、早期対応が大切で、子どもとともに家族を支援することが連鎖を断ち切ることにつながる。しかし児童相談所だけでは立ち行かず、地域社会で助け合うことが求められていると思う。

（星俊彦氏）

施設勤務のとき退所者の支援をしていて、それがきっかけとなって星の家を立ち上げた経緯を話された。そして、行くところがないのに後先考えずに仕事を止める子どもたち。法の網からこぼれ落ちたこの目の前にいる子どもたちを助けなくてどうするのだ！という自立援助ホームの始まりのスピリットでやってきている。

星の家に来る子どもたちの話を聞くと、施設体験者はもとより、家庭が何とか形を保っていたが思春期を迎えて崩壊・・・一人ひとりがとんでもない扱いを受けている。どのように対処していいのかわからないのが正直なところだと。

少年刑務所に入所中の少年のこと。星の家に来たとき皆との夕食は断るといふ。何故という問いに、仲が良くなると溜口を言うやつがでてくるが、私は

ガマンできなくつい殴ってしまう。だから・・・星の家が最後の砦だと思ってきたからだ。きっと、腹の中のモンスターが暴れだす予感、不安があったように思える。

この少年は母親に捨てられ、父の暴力、そして義兄から非行を叩き込まれ、筋金入りの不良少年にさせられた。ある事件を起こし裁判に、面会で“ごめん”といい“二度と戻らないので荷物を処分して”と。“出てきたらまた星の家に戻って来い、荷物は預かっておく”といった。そして判決が出たが、本人は納得がいかないという。量刑ではなく、何でおれ自身がこういうことになって行ったのかが分からないのだと、泣いた。

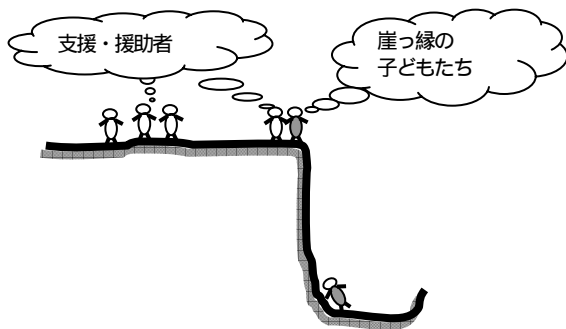
人に毒を与えれば、悪くなる。良いものを与えれば良くなるもので、裁判でなぜ彼の言うことに答えあげられないのか！これはおかしいと思い、声を上げなくてはならないと思っている。

(辻恵介氏)

3 氏の話の中の事例について、病理の深さがうかがえると、崖をイメージして答えられた。

最初に、崖の上にいる人は助けられる。しかし、崖の下にいる人を救うには、心だけでは助けられず薬での治療が必要となる。

次に、崖っ縁にいる人を助けるにはこちらが安全なところには救えない。安全圏を越えないと手を差し伸べられないといわれた。そして、3 氏の立場を話された。



桐渕さん（児童相談所）は、崖の上の立場の職業のため支援・援助に限界を感じ、地域社会の支援を求めている。

星さんは、親の立場になって崖っ縁で身の危険を感じながら支援している。プライベートに近いと言っているが、私（辻氏）は星さんのようにはなれない。（笑）

中村さんは、最も難しい立場にいる。夫婦間の問題は難しく、代わりの夫にはなれないからだ。

そして、お金では解決できないことがある。こち

らが安全圏には相手を手助けられない。こちらが一步踏み出さなくてはならない。しかし、皆さんが星さんになると社会がつぶれてしまう。（笑）

里親制度もあるが、外国でもうまくはいっていない。営利目的なのが現状である。

今日、地域社会が崩壊したため 支援を学校に求め（教育の場）だめで家庭に（家庭が崩壊しているのだから）だめで地域社会を再生しなくてはきているが？このサイクルが単に回り続けるのか、スパイラルのように上昇しながら解決に向かうのか？

コーディネーターの福田雅章氏から 3 氏に活動を続けてきて良かった事例紹介をと促され、

(中村明美氏)

14 年前の最初に係わった女性。子どもが生まれ、不法滞在で帰国。その後裁判を起こし勝訴、日本滞在が認められた。精神的に問題がありながら今子どもと一緒に元気に暮らしている。長きにわたり良き支援者がいたからである。

(星俊彦氏)

最近うれしいことがあった。10 年前に16歳で来たワースト5に入る子ども。大人になっても不安定な生活が続くが、どうにもならないときに SOS を出す。PTSD で精神が不安定だったが7、8年付き合ってきてようやく病院で治療を受けることができるようになり、今は生活保護を受けている。最近のこと、“昔、あなたに早く人間になれるといいよな”といった事があると冗談交じりで言うと、“彼氏が出来て毎週休みの日には彼の家族と一緒に釣りに出かける”という返事。聞くところ穏やかな男性で、良さそうだ。“お前もようやく人間になれたな！”といった。このまま続いてくれるといいのだが・・・

ここで、コーディネーターの福田雅章氏から、会場からの質問を受け付けることに、

(高校生、大学生の子を持つ親)

児童相談所に相談に来る子どもの親に対するサポートはどうしているのか？

桐渕ゆか氏から、相談を受けた子どもに対する対応として家庭訪問を行うが、親が中心となる。親のサポートも大切と考えている。

(医師である男性)

生活力がない母子と一緒に支援する場所がない、

地域で支援できるセンター的な場所があると良いと思うが？

福田雅章氏から、市町村が支援するのが好ましいが、法的な強化が望まれる。

(星俊彦氏)

先ほど崖っ縁の話が出たが、星の家の子どもたちと接して崖っ縁のこの子を何とかしなくてはとの思いで関わるが、自分も崖から落ちそうになる。

子どもと一緒に海に沈んでいく自分を命綱をもっ



シンポジウム会場

て支え空気を送り込んでくれる人達がいたから今が

ある。支える人を支える人達がいるからである。反面、縛り付けられたようで、辞められなくなってしまった。

最後に、家庭じゃなくても良い、安全にいられる居場所がこの境遇の子どもたちに必要なのだと話された。

(辻恵介氏)

支援と援助の言葉の違いだが、支援 = 市民、援助 = 専門家に置き換えても良いのでは。

この問題の対応には、専門家にシフトしていくのか、市民にシフトしていくのか、あるいは専門家の知識と人生経験からくる知識を生かしていくのか。支援者(星さんのような人)のメンタルヘルツも重要になってくる。そしてここにいる三人はスーパーマンではない、気晴らしするようにと話された。

(コーディネーター福田雅章氏)

最後に、支える会は、設立当初には会員がどんどん増加していったが、ここ数年は減少をたどっている。この問題を多くの人に知ってもらいたい。今社会の危機と思っているので、関心を持ってもらう取り組みを推進していきたいと締めくくられた。

END

## 第12回青少年の自立を支える会コンサートのご案内！

### 「倉沢大樹 & フレンズコンサート」

開催日 3月14日 土曜日

開演：17時00分(開演：16時20分)

場所 宇都宮市文化会館 大ホール



入場料 1,000円(全席自由) \*4歳児以上有料(無料託児コーナーあり)

出演者 倉沢大樹(エレクトーン) 浅香薫子(声楽家) 島田絵里(フルート)  
Banana Jam (倉沢大樹 & フレンズのジャズコンボ)

コンサートチケットは、同封の郵便振込みでも購入できます！

広告掲載(コンサートプログラム)を募集しております！

明けましておめでとうございます！年が明けてますます寒くなってきましたね。星の家もコタツとヒーターで寒さをしのぐ毎日です。

入居者たちは、仕事から帰るとコタツに潜り込み、さらにヒーターの前を独占！「ダメだよ」といながらも、寒い中仕事をして、自転車をひしひしとこいで帰ってくる姿を想像すると(えらいよ～)と心の中で思う私です。



星の家の様子もお知らせしたいのですが、近々星の家たよりが出る予定(?)なので、詳しくはそちらで・・・

今回の春夏秋冬は、11月2日に行われた「星の家まつり」のご報告を主にしたいと思います。

### 値付け

会場を借りての値付けを6回、間に合わない分は、星の家で入居者とボランティアさんに手伝ってもらって行いました。



値付けの一こま

「まつり当日は参加できないから」と、毎回のようにお手伝いに来てくださる方がいたり、2年前に星の家へ実習に来ていた今は社会人の方が来てくださったり、改めて人のつながりを感じる値付けでした。平日が多かったにも関わらず、かけつけてくださる方がいて本当に助かりました。

ボランティアの方も慣れていたので、作業はスムーズに進みましたが、普段担当する部門以外の値付けはなかなか難しく、価格の設定にバラつきがありました。今年の値付けの反省を来年に生かしたいと思います。

### 前日トラック積み込み

浅香先生宅にて、男性4名、女性3名、入居者・OB2名の9名で行いました。

段ボールの数は550個で例年より少ない数でした。バケツリレーで次々とトラックへ積んでいき、作業は1時間ほどで終わりました。

### まつり当日



体育館床シート敷きの一こま

今年も晴天に恵まれ、第11回星の家まつりは開催されました。ボランティア総数は210名超(内、学生ボラ53名)。入居者やOBも、当日はお手伝いをしてくださいました。まつりも11回を迎え、本当にボランティアの皆さんが慣れているのが会場を見れば分かります。指示がなくてもメン

トは次々に設置され、体育館にはどんどんブルーシートが広げられ、段ボールが運びこまれます。大きな収益をあげることと並んで、このボランティアさん達の活躍が、星の家まつりの誇れるところだと思います。

**模擬店**は、毎年のことながら大盛況でした。売上が天候に左右されやすい中でも、各部門が工夫を凝らし販売してくれました。外に模擬店が並んでいるだけで、楽しいイベントの雰囲気が出ます。今回は新たにアルスパンさんの協力で、惣菜パン・菓子パンの販売をしましたが、こちらもあっという間に売り切れてしまいました！

**バザー**は、物品の少なさが心配されていましたが、当日持ち込みも多かったようで、体育館いっぱい商品が並びました。

実は、売れ筋の日用品や食品は、なるべく値下げをしないようにしています。まつりの売上が星の家の運営資金になることを説明して、お客様に



バザー会場の一こま

買っていただくようにしています。ただ、「星の家まつりは安い」というイメージも強いので、毎回ボランティアさん達は頭を悩ませながらの販売となっています。

お昼にはワールド・ソウル・コーラスが歌声で会場を盛り上げて下さいました。ベンチに座りながら歌声を聴くお客様やボ



WSCの皆さん

ランティアさんの、ゆったりとした雰囲気、今年のまつりの印象的な場面でした。

今回は3連休の中日で、各地域のイベントと重なってしまいました。また物品数・お客様数とも例年より少なく売上も心配でしたが、135万円の利益を出すことができました。

ボランティアとして関わってくださったみなさん、本当にありがとうございました。

当日の様子が「Fes」という情報誌に掲載されたのでご覧ください。(別紙)

### 後片付け

約3分の1の物品が売れ残りとなり、後日幕田町にお借りしている家へ運びました。本・CDと衣類は来年まで置いておいて劣化させてしまうよりも、他の販売ルートへ回したほうが良いと判断し、今までたまっていた分をリサイクルショップへもって行きました。その他大型家具や壊れた電化製品など、まつりで売れないものは、残念ですが、10回に分けてごみ処理場へと運びました。

### 集合写真

このように大勢のボランティアに支えられています。



### 星の家の様子

現在の入居者は4名です。

**M(19歳)** 星の家に入居して10ヶ月が経ちました。雑貨屋さんで働き仕事も安定しています。貯金も貯まり、そろそろアパートへ出る準備が始まりそうです。

**H(19歳)** 8月に入居してから始めた、グループホームの仕事を続けています。最近になって念願のケータイを持つことができました。

**K(18歳)** 仕事を始めて2ヶ月たちました。切った野菜を段ボールに詰める仕事をしています。入居した頃はキレイに整えてあった爪を短く切って、毎朝寒い中仕事に行っています。

**M(15歳)** 11月に入居しました。左官屋で働いていて、朝一番に仕事に出ます。働くこと自体始めてですが、愚痴も言わずに毎日仕事に通っています。

今いる入居者たちはみな仕事をしていて、昼間はとても静かな星の家です。だからといって、日中星の家が閉まるということはありません。精神科に通うOBが毎日来ていたり、子どもを連れてOBがふいに顔を出したり、仕事が休みのOBが遊びにきたりします。でもこんな風に、いつでもオープンな星の家でいられるのは、星さん一家が住み込んでいるからです。

星の家が引越しをして、新しい家に移ったときには、この辺りを考えなくてはなりません。また法律の改正によって、自立援助ホームに対する補助金の出方も変わるようです。なんだか、色んなことが一変に変わってしまうような・・・バタバタしそうです。でも、私たちがしなくてはならないのは、入居者たちが今までと変わらず、生活できるようにすることだと思うのです。

これからも星の家が星の家らしくいられるようご支援下さい。どうぞよろしく申し上げます!(YY)

# 事務局報告

## 星

### の家まつりの報告

去る11月2日日曜日、宇都宮市明保野体育館および隣接駐車場を会場に、第11回目の星の家まつりを開催しました。晴れの天候に恵まれ、前回同様に大勢の方々を訪れ成功裏に終了しました。

売上結果は、品物が少なかった割には1,350千円(詳細は後掲の決算書参照)もの収益を上げることができました。ここにご支援ご協力をいただきました皆様に対しまして厚くお礼申し上げます。

さて、まつりの詳細については前述の春夏秋冬「星の家」で述べておりますので省略いたします。

今回、会場手配は予定していた開催日に市の行事と重なったため一週間遅れとなりました。この会場確保のために急遽宇都宮市の後援を頂き、優先的に確保することが出来ました。

会場設営機材は、毎年ご支援いただいているテント、テーブル、イスの無償貸与のイベントワーク(有)様、プロパンガスの無償提供の(株)ミヤプロ様、段ボール類の無償回収の(有)マジック・ワーク様、

そして、臨時倉庫の無償提供の本会の浅香理事、

倉庫として利用している幕田町の住宅の持ち主の方。

事前PRでは、特にとちぎコープ生活協同組合様には商品宅配の案内綴りにまつりチラシを同封(印刷負担で1万部以上)していただき、また、富士見地区自治会連合様には、会場周辺の各家庭にまつりチラシを回覧していただきました。

ボランティアでは、国際医療福祉大学生ボランティア有志(53名)、ワールド・ソウル・コーラス宇都宮(25名)などの団体の支援をいただき、

また、バザー物品提供では157の個人・団体の方々のご支援をいただきました。

そして、星の家の人びとはというと、強制はしていませんがバザーコーナーなどを手伝っていただきました。星の家の入居者は休日仕事のため、まつり当日の手伝いが思うようにできません。仕事優先ですのでご理解願います!

おかげさまでこのように大勢の方々のご支援、ご協力があったここまでたどり着くことが出来ました。至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様にお詫びいたすとともに深く感謝申し上げます。

引き続き本会活動を支えてくださりますようよろしくお願い申し上げます。

第11回星の家まつり収支決算書

項目	収入	支出	純利益 (収入-支出)	備考
合計	1,672,236	321,900	1,350,336	
バザー計	1,293,030	0	1,293,030	
オークション	200,400		200,400	
野菜	49,750		49,750	
食糧	143,960		143,960	値付時売上 1200円 含
特売品	42,620		42,620	値付時売上 400円 含
日用品	316,630		316,630	値付時売上 7000円 含
おもちゃ・くじ引き	44,220		44,220	
食品・雑貨・手作り	178,880		178,880	
衣類・鞆かばん	240,060		240,060	値付時売上 5600円 含
本・CD	57,810		57,810	売却代 17660円 含
フリーマーケット	0		0	
ぼうし	18,700		18,700	倉谷製帽店 応援出店
模擬店計	312,529	154,239	158,290	
焼きそば	81,101	30,599	50,502	324食 + ボラ提供分 約200食
飲み物	21,000	26,890	-5,890	210個 + ボラ提供分
和菓子	81,800	55,600	26,200	今回パン含む
ちたけうどん	72,200	28,900	43,300	CSグループ
ライスカレー	10,928		10,928	国際医療福祉大学 @250
鉢花売上(希望の家)	4,500		4,500	希望の家
鉢花売上(一人暮らし)	5,900		5,900	一人暮らしの会 岩本先生
マドレーヌ	20,100		20,100	養徳園
お菓子詰め合わせ	15,000	12,250	2,750	渡辺ヤスさん 友人
ピザ	未出店		0	
アトラクション等計	10,500		10,500	
占い	10,500	収益寄付	10,500	咲祐里さん
人形劇	未出店		0	くぐつ
募金・寄付	56,177		56,177	
寄付金・募金	56,177		56,177	
寄付金券販売	0		0	金券なし
本部経費		167,661	-167,661	
会場借賃		38,370	-38,370	
輸送費		35,000	-35,000	日本通運 4t車1台
共通消耗雑費		94,291	-94,291	



## 連

### 合から「愛のカンパ」助成金を再びいただきました！

日本労働組合総連合会（略称：連合）が実施している「愛のカンパ・地域助成事業」に、東京電力労働組合栃木総支部（執行委員長：木村靖）が“本会のために”と応募していただいたもので、連合から昨年に続き 50 万円の“愛のカンパ金”をいただきました。

この「愛のカンパ」は、連合組合員・OB 組合員またはその家族が活動に参加している NPO・NGO 団体や構成組織、地方連合が推薦する団体に、連合「愛のカンパ」で集約したカンパ金を寄贈し、活動に役立てるとい趣旨のものです。

連合組合員の皆様方にお礼申し上げます。

## 認

### 定 NPO 法人として四度目の認定を受けました

認定 NPO 法人として平成 14 年 11 月に全国で 10 番目の国税庁長官の認定を受けてから 6 年が経過、昨年 11 月に四度目の認定を受けました。

今回から認定期間が 2 年間から 5 年間と大幅に延長されました。

課法 11-210           平成 20 年 11 月 25 日  
認定有効期間   自 平成 20 年 12 月 1 日  
                          至 平成 25 年 11 月 30 日

## 宮

### っこフェスタ 2008 に参加



フェスタの星の家コーナー

去る 11 月 29 日土曜日、マロニエプラザ・宇都宮市体育館を会場に、今回初めての宮っこフェスタ 2008 が開催され、本会も参加、おもちゃを主にしたバザーと星の家の PR コーナーを設けました。

こどもフェスタとあって子ども連れの方々が大勢訪れていました。

バザーの結果は 14,036 円の収益となりました。

## 第

### 3 回星の家 2 コインチャリティが開催されました！

「ほんのり心があたたまる 一人語りとおカリナの響き」が、12 月 6 日（土）宇都宮市民活動サポートセンターとの共催で、宇都宮市東コミュニティセンターにて来場者 70 名を迎え開催されました。

一人語り間に入るオカリナ演奏に、岩本さんのこれまでの経験や、趣味で行っているハイキングで感じたことなどを飾り気のない言葉で話すものでした。

このチャリティーで集まった善意のお金 38,580 円を本会に寄付していただきました。岩本さんをはじめご来場の皆様方にお礼申し上げます。

## 臨

### 時総会を開催しました！

平成 20 年度事業計画の重点目標である自立援助ホーム「星の家」の移転について検討を進めてまいりましたところ、最近になって移転に好条件の中古建物物件が宇都宮市内に見つかりました。しかし、急を要する物件でしかも総会議決を要する事項であることから新年早々の 1 月 17 日日曜日、13 時 30 分から宇都宮市総合コミュニティセンター大集室を会場に臨時総会を開催いたしました。

臨時総会は、正会員総数 337 名のうち定足数 5 分の 1 を大幅に超える 197 名（出席者 35 名、委任状 162 名）の出席を得て成立、議長に小林幸正を選出し議事に入りました。

議案『自立援助ホーム「星の家」移転に関する土地付中古建物の購入と購入資金の調達について』を審議いたしましたところ、満場一致で原案通り承認可決されました。

この承認を受け、自立援助ホーム「星の家」の土地建物購入に向けて準備を進めてまいります。詳しくは購入後に改めてご報告いたします。



臨時総会の一コマ

寄

## 付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成20年8月～20年12月まで

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。寒さ厳しい季節を迎えました！先月還暦を迎えましたが、苦手な寒さが年々身に耐え、ああ～サム～イヨ！  
いよいよ星の家の移転が具体化してきました。建物購入に向けて諸手続きを進めてまいります。皆様のご支援をお願いします！（多門）

### お知らせコーナー

#### ◎ 寄付金が個人住民税の控除対象となります！ ◎

認定 NPO 法人である本会への寄付金が、H20 年度から所得控除のほかに個人住民税の控除対象となりました。

#### ◎ 倉庫を探しています！ ◎

「星の家」の入居者たちの支度品（譲っていただいた冷蔵庫や洗濯機など）  
やまつりバザー用品を保管する倉庫を探しております。



スペース：20畳程度あればベストです。  
場所：宇都宮市街中心地から30分以内。  
大型トラックが横付けできるスペース要  
家賃：ご相談させていただきます。

なお、沢山の方からお米や野菜あるいは日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせください。

(記載ミスのお詫び)

前号で寄付・会費納入者の掲載が7月～8月分までとありましたが、誤りで7月分が正しいものでした。ここにお詫び申し上げます。

### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\* 通信欄に会員種別（正会員、賛助 A、賛助 B）寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

\*\*\* 「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております！ \*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会  
発行日/ 2009年1月23日  
発行責任者/ 福田雅章  
編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/ 321-0963 栃木県宇都宮市南大通り 4-2-18  
電話/ 028-651-0161 FAX/ 028-651-0162  
IP 電話/ 050-3437-2401  
Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp  
HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>